



営農経済渉外係
野村 勝
〔南部地区担当〕

* 今月号は私が担当しました。

とうもろこしの露地栽培

とうもろこしは、トンネル栽培が中心です。しかし、近年では遅霜の影響で蒔き直しなどが続いているため、今号は露地栽培についてご紹介します。

1 栽培概要

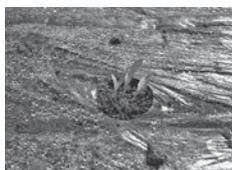
- ① 品種
味来390、味来946、プレミアム味来85(朝日工業品種)
- ② 播種期
4月上旬～下旬
- ③ 収穫期
7月上旬～中旬

2 栽培のポイント

- 施肥は、N \parallel 25 \sim 30、P \parallel 20、K \parallel 20 \sim 25kg(10a)が目安です。追肥は元肥主体に、本葉3 \sim 4枚時と雄穂出穂前の2回行います。
- マルチは播種の1週間前までに張り、地温18℃ \sim 20℃以上を確保します。
- 株間30 \sim 35cmの2条千鳥マルチ



収穫適期の果実



発芽後の様子



美味しそう!



交配期の様子

○ 第2穂が発生した場合は、若いうちに茎や葉を傷めないよう、すばやくねじめるように取り除きます。取り遅れた場合はそのまま管理してください。

○ 収穫適期は、雄花開花後25日が目安ですが、天候により左右されるため、20日頃から試し収穫を行い、適期を逃さないようにしましょう。(品種によっては色乗りが悪いためです。)

○ 地際から発生する分けつは、基本的にそのまま残します。葉面積の確保・倒伏防止・受粉量の向上・先端不稔の回避につながります。

○ 2粒以上(品種によっては3粒)を推奨し、本葉4 \sim 5枚時にハサミを使用し、1本立ちにします。一番大きい株ではなく、全体に大きさが同じものを残し生育を揃えます。

○ 使用します。播種は、1穴に2粒以上(品種によっては3粒)を推奨し、本葉4 \sim 5枚時にハサミを使用し、1本立ちにします。一番大きい株ではなく、全体に大きさが同じものを残し生育を揃えます。

3 留意点

○ 良質な果実を収穫するために、高温・乾燥が続く場合は灌水を行い、しなびが発生しにくい環境作りを心掛けましょう。特に、将来収穫される穂は本葉4 \sim 8枚期に決まります。

○ 収穫は朝早く行うことで甘み、鮮度が維持されるので、収穫後は直射日光を避け、鮮度維持のため

ためのシートなどをかけておくことをお勧めします。

※ツマジロクサヨトウにご注意ください。

この虫は、とうもろこし・稲・サツマイモなどの野菜類を食害します。一回の産卵数は1500 \sim 2000個、生涯産卵数は最大10000個近くになるので、被害が大きくなると予想されます。近県では茨城県で確認されています。ツマジロクサヨトウに適用のある農薬は、現段階ではありませんので、本虫を発見しましたら左記の連絡先に御連絡ください。

系統	作用機 構分類 (IRAC コード)	薬剤名	希釈倍数	使用方法	使用時期 又は 収穫前日数	使用回数	オオタバコガ	アブラムシ類	アヲメイガ
有機リン	1B	エルサン乳剤	1000倍	散布	収穫14日前まで	4回以内		○	
	2B	プリンスフロアブル	2000倍	散布	収穫14日前まで	2回以内		○	○
ビスロイド	3A	トレボン乳剤	1000倍	散布	収穫7日前まで	4回以内		○	
		アグロスリン乳剤	2000倍 1000 \sim 2000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内		○	
ネオニコチノイド	4A	モスピラン水溶剤	2000 \sim 4000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	○		
		アドマイヤーフロアブル	4000倍	散布	収穫14日前まで	2回以内	○		
マクロライド	6	アフーム乳剤	1000 \sim 2000倍	散布	収穫3日前まで	2回以内			○
生物農薬	11A	ゼンターリ顆粒水和剤	1000倍	散布	発生初期(但し、 収穫前日まで)	—			○
ネライストキシ	14	バダン粒剤4	6kg/10a	株の上から均一に 散布する。	収穫7日前まで	2回以内		○	
		バダンSG水溶剤	1000倍	散布	収穫21日前まで			○	
昆虫成長制御	15	カスケード乳剤	2000 \sim 4000倍	散布	収穫7日前まで	2回以内		○	
			4000倍						
ジアミド	28	プレバソフロアブル5	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内		○	○
		ベネビアOD	4000倍	散布	収穫前日まで	3回以内		○	○
その他	9B	コルト顆粒水和剤	4000倍	散布	収穫前日まで	3回以内		○	
	13	コテツフロアブル	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内			○
	UN	プレオフロアブル	1000倍	散布	収穫前日まで	2回以内			○

薬剤例は令和元年11月20日の登録状況に基づいています。



特徴

- 幼虫は大きくなると体調約4cm、体色は写真のように変化します。
- 頭部には網目模様があって「逆V字」に見えます。
- 若齢幼虫は区別できない場合があります。

◎ 本虫を発見した場合は、下記に御連絡下さい。
 埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 埼玉県農林部農産物安全課 農薬：植物防疫担当
 電話：048-830-4053 FAX：048-830-4832
 * その他お近くの県農林振興センターにもご相談ください。

